

年間指導計画作成のための留意点

- 教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
- 普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
- 生徒が主体的に学習活動に参加し、協力し合って学習に取組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置づける。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学級経営	人権教育の目標を踏まえ学級目標の設定	生徒理解を深め、教師と生徒、生徒相互の望ましい人間関係を築く。すべての生徒の学校生活への適応を図る。				一人一人が、個性や能力を発揮して活躍できる場や機会を設定し、学級の一人として認められるという存在感、安心感を持つことができるように指導する。					1年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確認させると共に、互いの良さを認め合えるように指導する。		
各教科読書科	社会：世界のようすをとらえ、世界の多様な文化や習慣等について学び理解する。		技術：インターネット上の人権侵害の状況を理解し、SNSを利用したコミュニケーションに関する問題点や発信者としての責任について理解することで、他者の人権を尊重してインターネットを活用しようとする態度を育む。		社会：古代文明や古代国家の仕組みの学習を通して、身分制度や階級制度といった支配されていた時代を知り、人権の尊重に関する基本的な考え方への理解を深める。						社会：身分制度による支配を知り現代の相違を知る。		保健体育：思春期の心の発達について正しい知識をみにつけ、自己についての肯定的態度を育む。
特別の教科道徳	生命の尊さ お互いにかげがえのない存在であることを理解	集団生活の向上 運動会の準備等に関連して、集団の意義を認識し自分の役割を果たす姿勢を身に付ける。				保健体育：心身の発達と心の健康について学習し、自己や他者についての理解を深める。		より良い社会 個人の尊厳と人権を尊重しながら、お互いの立場を理解し合い、互いに助け合っていく姿勢を養う。				集団生活の向上 お互いの立場を理解し合い、協力し合っていくことの大切さを学ぶ。	
総合的な学習の時間				「福祉」「共に生きる」：障害についての学習を通して、障害のある人々との共生を考える。また、差別や偏見をもたず、個人の尊厳と人権を尊重し、共に生きていく生き方を追求する態度を培う。									
特別活動							学校行事：運動会・学習発表会 係分担をし、主体的・協同的に取り組む態度を培う。				学校行事：百人一首大会 近隣の他校の生徒との交流をし、互いを認め合い、共に生きていこうとする態度を育てる。		学校行事：合唱コンクール 主体的に社会に関わりより、他者と豊かな関係を築こうとする態度を育てる。
その他			ふれあい月間 「いじめ防止」				ふれあい祭り			ふれあい月間 「不登校対策」			

「 」=個別的な視点からの取組（末尾の「 」内は人権課題）  
 ⇔=関連的な指導  
 ◻=多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

江戸川区立 鹿本中学校 人権教育年間指導計画（第2学年）

年間指導計画作成のための留意点

- 教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
- 普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
- 生徒が主体的に学習活動に参加し、協力し合って学習に取り組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置づける。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学級経営	人権教育の目標を踏まえ学級目標の設定	生徒理解を深め、教師と生徒、生徒相互の望ましい人間関係を築く。すべての生徒の学校生活への適応を図る。			一人一人が、個性や能力を発揮して活躍できる場や機会を設定し、学級の一人として認められるという存在感、安心感を持つことができるように指導する。					1年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確認させると共に、互いの良さを認め合えるように指導する。			
各教科読書科		社会：近世・武家社会の発展 身分制度を通して、人の尊重を考える。		技術：インターネット上の人権侵害の状況を理解し、SNSを利用したコミュニケーションに関する問題点や発信者としての責任について理解することで、他者の人権を尊重してインターネットを活用しようとする態度を		国語：戦争についての教材を通して生命を尊重しようとする態度、人権を尊重する心情や態度を育てる。		社会：日本各地の地理的条件による地域の産業・特色や文化についての学習を通して多様な社会に対して開かれた心と肯定的に受けとめる心を育てる。		社会：近代の日本 人権民権運動、日清戦争、日露戦争、第二次世界大戦を通して、人権の尊厳・国家間の主権の尊重・平和を実現するために努力する心を育てる。			
特別の教科道徳	強い意志 身近な目標に向けて、困難に屈することなくやり抜く姿勢を養う。	集団生活の向上 運動会の準備等に関連して、集団の意義を認識し自分の役割を果たす姿勢を身に付ける。		人と人との交わり 進んで人々のために尽くそうとする意欲や態度を育てる。		差別・偏見の克服 誰でも平等で差別や偏見を受けない社会を構築しようとする姿勢を養う。		社会への仕事 共に支え合うことの大切さを自覚し、社会への奉仕を進んで行おうとする姿勢を育む。		誠意ある行為 自ら考え判断し、誠実に実行し、その結果に責任を持つようとする態度を養う。		健全な異性観 男女は互いを尊重し合って豊かな社会を築こうとする心を育てる。	集団生活の向上 互いの立場を尊重し、協力し合って集団生活を向上させようとする態度を育てる。
総合的な学習の時間			林間学校：訪れる地域の産業・特色・文化・等について調べ学習を行う。		進路学習：各自の希望に合った上級学校について調べ学習を行う。		林間学校 体験したことをまとめて発表することを通して互いの文化や習慣を尊重する態度を育てる。		「福祉」「共に生きる」： 福祉の課題について調べ学習を行い、差別や偏見をもたず、個人の尊厳と人権を尊重し、共に生きていく生き方を追求する態度を育てる。		職業体験： 職業について調べ、職業を実際に体験して、勤労の大切さと大変さを学ぶと共に、社会を支えている人々への感謝をする態度を育てる。		
特別活動			林間学校 寝食を共にして共に触れ合う場を大切にしつつ、自己を尊重する資質を育む。				学校行事：運動会・学習発表会 係分担をし、主体的・協同的に取り組む態度を育てる。					学校行事：合唱コンクール 主体的に社会に関わり、他者と豊かな関係を築こうとする態度を育てる。	
その他			ふれあい月間「いじめ防止」				ふれあい祭り			ふれあい月間「不登校対策」			

「 」=個別的な視点からの取組（末尾の「 」内は人権課題）  
 ⇔=関連的な指導  
 〓=多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

年間指導計画作成のための留意点

- 教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
- 普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
- 生徒が主体的に学習活動に参加し、協力し合って学習に取組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置づける。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学級経営	人権教育の目標を踏まえ学級目標の設定	生徒理解を深め、教師と生徒、生徒相互の望ましい人間関係を築く。すべての生徒の学校生活への適応を図る。				一人一人が、個性や能力を発揮して活躍できる場や機会を設定し、学級の一人として認められるという存在感、安心感を持つことができるように指導する。					3年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確認させると共に、互いの良さを認め合えるように指導する。	
各教科読書科	技術：インターネット上の人権侵害の状況を理解し、SNSを利用したコミュニケーションに関する問題点や発信者としての責任について理解することで、他者の人権を尊重してインターネットを活用しようとする態度を育む。		社会：私たちの生活と現代社会：基本的人権と現代社会の課題との関わりの中で、差別や偏見をなくし人間尊重についての考え方を深める。			家庭：幼児の心身の発達と保育：かけがえない存在として生まれた子どもを健全に育てるのに必要な環境、保育のあり方を学ぶ。		社会：現代の民主政治と社会：現代社会の様々な人権課題の解決や、共生社会の実現に向けての社会の形成者として関わる態度を持たせる。			理科：自然と人間の関わり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について考察し、科学的に判断する力を育てる。	
特別の教科道徳	集団と役割 集団の一員としての役割を自覚し、自ら責任を果たそうとする態度を育てる。	社会の秩序と規律 集団生活の秩序と規律を自ら高めようとする意欲を培う。	国際貢献 人類の幸福に貢献しようとする態度を育てる。	限りある命 人間には、弱さと同時に強さと気高さがあり、よりよく生きる心情を養う。		差別・偏見のない社会 差別・偏見のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。	家族の願い 愛情にあふれ、支え合う家庭を築こうとする意欲を育てる。	生きがいを求めて 理想の実現を目指して自己の人生を切り開く態度を育てる。		差別を許さない心 人権を重んじ、差別や偏見のない社会を実現しようとする態度を育てる。	自分の生き方 自らの意志と責任において主体的に生きる意欲を高める。	
総合的な学習の時間	修学旅行 事前学習として見学先の文化遺産や歴史を調べ学習に取り組む。		「共に生きる」：地域の中に様々な人々が支え合って生活していることを知り、その大切さを学ぶ。			「生き方を考える」： 生徒各自の目標に向かって、進路先の研究を行い、それに向かって努力し続けることの大切さを学ぶ。				生き方を考える： 3年間の中学校生活を振り返って後輩へのアドバイスを送ることを通して、卒業後の生き方を考える。		
特別活動		修学旅行 事前に学習した内容をもとに、伝統文化や歴史を学ぶ。					学校行事：運動会・学習発表会 係分担をし、主体的・協同的に取り組む態度を培う。					学校行事：合唱コンクール 主体的に社会に関わり、他者と豊かな関係を築こうとする態度を育てる。
その他			ふれあい月間 「いじめ防止」			ふれあい祭り		ふれあい月間 「不登校対策」				

「 」 = 個別的な視点からの取組（末尾の「 」内は人権課題）  
 ⇔ = 関連的な指導  
 〓 = 多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。